

第2章 熊毛地域のポテンシャル

1 豊かな自然環境

熊毛地域は、九州本土の最南端佐多岬から、南東方向約40キロメートル、南西方向約60キロメートルの洋上にある種子島、屋久島、口永良部島、馬毛島の4島からなっています。

熊毛地域の総面積は993.69平方キロメートルで、県土の10.8パーセントを占め、県の全離島面積の39.7パーセントを占めています。

種子島は細長く平坦な島で、離島の中で全国5位の面積、屋久島は九州最高峰宮之浦岳を持つ円形の山岳島で、離島の中で全国4位の面積となっています。この対照的な形状の違いは、両島の生い立ちの違いによるものであることが地質構造上明らかにされています。

熊毛地域は、世界一の大きな海流である黒潮の影響により、気候は温暖多雨で、特に屋久島の山岳地帯では年間降水量は8,000～10,000ミリメートルにも達します。

種子島は、大隅海峡に突き出す喜志鹿崎を北端に、美しい海岸線沿いにサーフスポットや海水浴場が点在しており、サーフィンなどマリンスポーツ目的等の移住者も多く、また、世界一美しいロケット打上げ施設といわれる「種子島宇宙センター」があり、多くの観光客がロケット打上げ見学に訪れています。

特徴的な地形として、千人の座敷を作れるほど広いといわれる大海蝕洞である千座の岩屋や、島最南端の岬で高さ40メートルほどの海食崖となっている門倉岬は観光地となっており、そのほか、島内にはマングローブやヘゴ自生群落、太平洋と東シナ海の両方を望む天女ヶ倉、ウミガメ産卵上陸地である長浜海岸など豊かな自然環境を有しています。

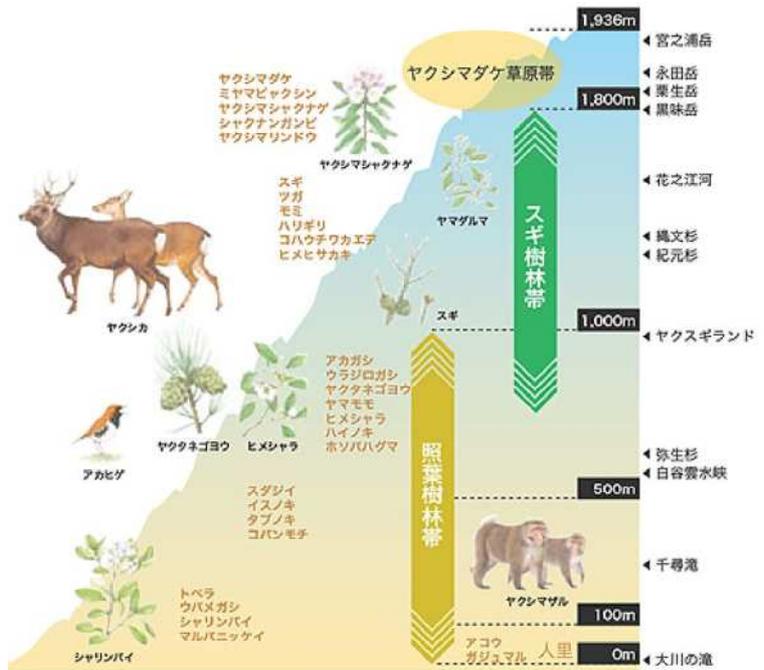
馬毛島は、西之表市の西方12キロメートルの海上に浮かぶ無人島で、最高地点は71.7メートルと極めて低平な島であり、絶滅のおそれがあるマゲシカなど貴重な生物が生息しています。



屋久島は、九州の最高峰宮之浦岳（1,936メートル）をはじめ、標高1,500メートルを超える峰々や世界的に貴重な屋久杉の原生林を有するとともに、低地の亜熱帯植物帯から山頂付近の亜高山帯植物群落まで植生の垂直分布が顕著に見られ、多くの固有植物、北限・南限植物が自生していることなどから、1993年に我が国で初めて世界自然遺産に登録され、人類の遺産として世界的な評価を受けています。また、複数の遊歩道がある白谷雲水峡やヤクスギランドは、ヤクスギなどの原生林を鑑賞できる自然休養林として、多くの登山客で賑わっています。

そのほか、2005年にラムサール条約（※1）の登録湿地となった世界有数のウミガメ産卵上陸地の永田浜や、日本の滝百選に選ばれた大川の滝、巨大な花崗岩の一枚岩の向こうに流れる落差60メートルの千尋の滝、天然温泉である平内海中温泉や湯泊温泉など豊かな自然環境を有しています。

口永良部島は、屋久島の西方向約12キロメートルに位置し、ひょうたん形をした火山島で、全域が「屋久島国立公園」の一部に指定されています。また、天然温泉のほか、国の天然記念物に指定されている大型のエラブオオコウモリが生息するなど豊かな自然環境を有しています。



植生の垂直分布：環境省「日本の世界自然遺産」HPより



（※1）ラムサール条約：湿地のもつ経済上、文化上、科学上の価値を認識するだけでなく、動植物、特に水鳥の生息地を確保するために制定された国際条約。

2 安心・安全で豊富な“食”

黒潮が流れ、歴史的風土を育んできた熊毛地域は、安心・安全でおいしい食物の宝庫です。

種子島には、全国的に知名度の高い安納いもをはじめ、さとうきびや早期水稲、かごしまブランドであるマンゴー、県内有数の生産地で特産品化を目指しているニガダケ（リュウキュウチク）、トビウオや巻き貝の一種であるトコブシなどがあります。

また、屋久島は、ぽんかんやたんかんが質・量ともに日本有数の主産地となっており、特に、たんかんはかごしまブランドでもあります。そのほか、トビウオやサバなどもあります。



3 個性ある歴史と多彩な文化

種子島は、1543年（天文12年）、島の南端門倉岬に漂着した明国船に乗っていたポルトガル人によってもたらされた鉄砲、度重なる漂着船等との交流などに見られるような歴史的に重要な役割を果たしており、鉄砲と同時に伝わった西洋式鋏は、種子鋏として伝統工芸品になっています。

また、南種子町にある広田遺跡は、国の史跡に、そこからの出土品は国の重要文化財にそれぞれ指定されています。

島の北端部の浦田神社は、我が国への稲作渡来初期の地として、「白ごめ」の種子をまいたといわれる巨石が祀られており、島南端部近くの宝満神社は、古



代からの稲の原種といわれる「赤ごめ」が栽培され、農耕行事の「種子島宝満神社の御田植祭」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。また、1698年(元禄11年)、第19代島主種子島久基による甘しょ栽培は我が国最初の栽培であったといわれています。

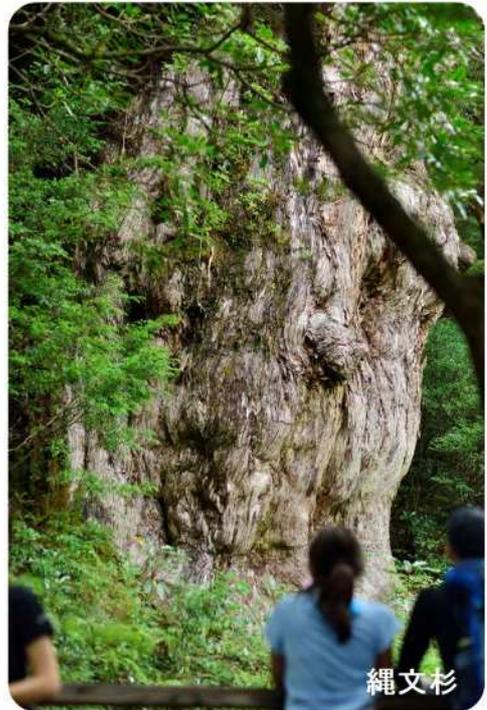
屋久島も、歴史上で鑑真や宣教師シドッチの上陸など海のシルクロードとしての重要な役割を果たしてきました。

1966年には、標高約1,300メートルの原生林にある樹齢2,000年代～7,200年と推定される縄文杉が発見され、屋久島のシンボリック存在となっており、国の特別天然記念物である屋久島スギ原始林や天然記念物のヤクシマカワゴロモなど貴重な文化財が分布しています。

屋久島の代表的特産品である屋久杉加工品は、資源の枯渇が心配されていますが、高級な建材、家具、工芸品から日用の小物まで多種多様な製品加工が行われており、その重厚な木目の美しさ、独特のつや、色あいは見る人の目を魅了する不思議な力を持っています。



宝満神社の御田植祭



縄文杉



屋久杉工芸品



ヤクシマカワゴロモ

4 地域資源等を活用した個性ある産業

種子島においては、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の種子島宇宙センターで大型ロケットの打上げが行われており、宇宙関連施設の立地やロケット打上げが地域の産業・経済に大きな影響を与えています。

また、農林漁業体験や民泊を行うグリーン・



種子島宇宙センター

南種子町提供

ツーリズム（※1）やブルー・ツーリズム（※2）、また、サーフィン、ダイビング、シーカヤックなどのマリンスポーツのほか、美しい景観や自然を生かしたサイクル・ツーリズム、アニメの舞台となった地域を巡るアニメ・ツーリズムといった新たな滞在型観光の促進による地域活性化が進められています。

青果用さつまいもについては、2010年に、生産・加工・販売が一体となった安納いもの地域独自のブランド化に向けて「安納いもブランド推進本部」を設立し、組織的な取組を展開しています。

屋久島においては、世界自然遺産となっている島の自然環境を生かしたエコ・ツーリズム（※3）による観光振興や、発電時にCO2を排出しない水力発電による電力の活用や電気自動車の普及などに取り組むCO2フリーの島づくりを推進しています。

また、Iターン者を中心に民宿や飲食店等の開業や、ヤクシカの皮や肉を利用して製品化する取組などが行われているほか、名水百選に選定される良質の水を活用した飲料水の販売など地域資源を生かした新たな産業が創出されています。

さらに、口永良部島においては、自噴する良質な天然温泉等を活用した観光振興に取り組んでいます。



屋久島におけるエコツーリズムの様子



電気自動車

5 豊富な「ウェルネス」（健康・癒やし・長寿）素材

熊毛地域は、世界自然遺産をはじめとする雄大な自然、黒潮の影響による温暖な気候や温泉、かごしまブランドであるマンゴーやたんかんに代表される安心・安全な農

（※1）グリーン・ツーリズム：農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

（※2）ブルー・ツーリズム：島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実したマリライフの体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動の総称。

（※3）エコ・ツーリズム：資源の保護＋観光業の成立＋地域振興の融合をめざす観光の考え方。旅行者がガイドに案内や助言を受けて、自然観光資源の保護に配慮しながらふれあい、学び、知る活動。

林水産物など「健康・癒やし・長寿」に役立つ様々な地域資源に恵まれています。

種子島には、ゴルフ場などの施設のほか、美しい海を生かしたサーフィン、ダイビング、シーカヤックといったマリンスポーツ、天然温泉等の健康づくりに適した環境や、日本の水浴場88選に選ばれた浦田海水浴場など美しい砂浜や海岸を利用した癒しの場、1998年に全国一になった中種子町の星空日本一など多くのスポットがあります。



また、屋久島には、天然温泉や山岳島の地形を生かしたトレッキング、サイクリング等の健康づくりに適した環境のほか、名水百選に選ばれた屋久島宮之浦岳流水をはじめ、森林浴の森100選の屋久島自然休養林（ヤクスギランド）、日本の百名山の宮之浦岳、日本の滝百選の大川の滝、水源の森百選の宮之浦岳国有林（白谷雲水峡）など数多くの日本百選に輝いた雄大な自然が豊富にあります。さらに、活火山を有する口永良部島には、豊富な湯量を湛える天然温泉が湧出しており、訪れる方々の癒しとなっています。

これらの熊毛地域のウェルネスは、世界的規模で健康志向が高まる中、住民の「健康・癒やし・長寿」に資するとともに、県内外に効果的に発信することにより、地域のブランド力の向上や、様々な交流を促進する原動力となる可能性を有しています。

